

## 令和4年度 第3回 豊田市男女共同参画推進懇話会会議録

- 日時 令和5年1月27日(金) 午後1時30分～3時00分
- 場所 とよた男女共同参画センター 21会議室
- 出席者 懇話会委員 石田路子(座長)、吉野まり子(副座長)、尾原洋子、新谷千晶、滝沢一也、石田 祐己、加藤慎一、奥野千加子、古賀康二郎  
事務局 生涯活躍副部長 加藤、市民活躍支援課長 小澤  
とよた男女共同参画センター 伊藤、村上、宮地
- 欠席者 榎 由佳

### 1 開会

加藤副部長挨拶

### 2 議事

#### (1) とよた男女共同参画センター事業実見評価実施報告について

事務局が資料に基づき説明。

#### <意見>

##### 1. 「LGBTをもっと理解しよう」について

###### A委員

ほとんど知識がなく参加をし、初めて知るようなことばかりでとても有意義な時間だった。このような機会をたくさん設定してもらい、多くの市民に知ってもらいたい。ただ、帰ってから聞いたことを整理しようと思うと内容が多かったので、参加者に合わせた視点で分量や内容を整理するとよりよくなると思う。

###### B委員

仕事でダイバーシティ推進に関わっているので、比較的理解はしやすかったが、勉強になることがとても多く、非常に有意義な講座だった。ただ、講座参加者が11人だったので、理解や多様性に対する共感を広げていくにはより多くの人に知ってもらうことが課題。LGBT理解の前に、「ダイバーシティ」や「多様性のある社会」など少し広い観点で対象を増やせたらいいのではないかなと思う。

- C委員 講座を受けて、理解者を増やしていく役割が自分にも託されたと思い、職場に戻ってすぐに話をした。幅広く市民に啓発するのは賛同するが、理解を深めて欲しい層に届いていないのではないかと感じる。親子や子どもを対象にしたプログラムなどもあるとよい。知ってほしい対象者層のニーズを講座設定の仕方でバランスをとっていけるといいと思う。
- D委員 L G B Tの理解促進はダイバーシティの問題、家族のあり方の問題につながっていく。これからセミナーなどでも考えていって推進して欲しい。

## 2. 「生き抜くためのアウトドア防災」～多様な視点で助け合おう～ について

- E委員 102名集まったことで、このテーマへの関心の高さがわかる。ただ、それだけ関心の高いテーマで座学のみ2時間というのはもったいなかったと思う。市内や県内で防災の資格を持つ方に講師をお願いしてワークショップ形式で定期的に体験型の講座をしてほしいと思う。また、2時間の講座で避難所の話が出てこなかったが、講師も「話しきれていない」と言っていたように、知らないといけなことがたくさんあると思ったので、複数回に分けるなど、定期的実施することが必要だと感じた。
- F委員 女性目線での防災ということがメディアなどでもよく言われていて、参加者も女性が多かった。住んでいる地域でも防災訓練が毎年あるが、参加者は男性がほとんどで、それではいけないと思った。避難所のことや、講座で得た知識をどう地域に活かすかを聞けるとよかった。
- G委員 アウトドアと聞くと、キャンプなどリアルなイメージがあるので、実物に触れるような体験ができる時間やコーナーがあるとよかった。子育て世代の方たちが参加してもらえるような企画をしていくことや、災害が起こったときに現場スタッフに女性や子育て中の方が入るような仕組みも必要だと思った。2時間という長い時間ではあったが興味を持って聞いて、さらに詳しく知りたいと思えた。
- H委員 集中して聞くことができ、とても有意義な時間だった。講師の話し方や興味を引く質問の仕方など工夫が盛り込まれていた。講座で聞いたことを職場や家庭で伝えようとするときに、情報だけを一方的に伝えるのではなく、相手の理解が深まるような工夫が必要だと思った。

D委員 非常に重要なテーマということもあり、継続的な形でたくさんの方に知ってもらう機会を設けることが必要だと思う。

### 3. 女性のためのスキル&マインドアップセミナー「éclat」

#### リーダーシップ② 職場の課題解決 について

I委員 講師が準備した資料があったが、講座の中では説明がなかったの  
で、資料に関する説明が聞けたらよかった。このような講座は自分から進んで参加するという一歩を踏み出すのが難しい。せっかくこのような機会があってリーダーの立場にいる人が参加できる  
といいと思ったので、声掛けをして参加をしてもらうとより有意義な講座になったと思う。

D委員 特にリーダーあるいはリーダーを任されている方たちの立場から、  
どういうふうにやっていったらいいかという、現場の悩みなどを出してもらうようなセミナーだったが、éclatの継続的な事業でもあるので、全体の中で今後の方向性も検討してもらいたい。  
  
3講座ともに各委員からいろいろと感想や意見があった。いずれもやってよかった事業だと思うが、これから次年度に向け、次の展開に進めていって欲しいと思う。

## (2) 令和4年度実績報告及び令和5年度取組予定について

事務局が資料に基づき説明。

## (3) 令和5年度男女共同参画社会に関する市民意識調査について

事務局が資料に基づき説明。

### <意見>

C委員 WEB回答を今回から導入することだが、前は男女各2,000人を対象にして回収率が約3割。少ない限られた意見でよいと考えるのか。回収率を上げるための方法を考えていくべきか。

事務局 他自治体も同様の意識調査の回収率は3割程度。どのような工夫をすると回収率が上げられるのかは、今後検討していきたい。

|     |  |
|-----|--|
| 事務局 | 一般的にこのようなアンケート調査は回収率が下がる傾向にある。市の総合計画の市民意識調査だと50%ぐらいの回収率で、別途「お礼および督促はがき」を対象者全員に送付すると、さらに10%程度回収率が上がるが、はがき送付の予算が別途必要となる。 |
| C委員 | 業務でもアンケートをやっていて、回収率の低さが課題だったが、WEB回答を併用したことで回収率は上がった。今回の意識調査でもWEB回答の併用で少しは上がるのではないかと。また、回答していない人が抱える問題が重要なのではないかと。と思う。  |
| A委員 | 前回の調査が4,000人配布して約30%の回収率なので、1,200人程度の回答だと思うが、統計学的にこれぐらいの数で、豊田市民の意識を図れるということではどうか。委員はその前提の上で議論をするので、その確認はしたい。           |
| 事務局 | 前回程度の回収率でも有効性はあると思う。ただ、できるだけ多くの市民の意見が反映されることが望ましいので、回収率を上げるように工夫したい。   |
| F委員 | 調査が届いても、認知症や高齢で回答できない人がいると思われる。  |
| D委員 | 年齢の高い層になると、施設に入所したり、自宅にいない方もいると思われる。それもふまえて対象や方法を検討し、いい調査ができればよい。  |
| E委員 | 「家から出られない」「束縛されている」という状況などでセミナーや相談会などに参加できない事情の方々が問題であると思う。どこの自治体も手を付けられない部分を調査できたら、豊田市の調査の特徴になってよいのでは。                |
| D委員 | 全体的な数的調査をすると同時に、個別に聞き取り調査をするなど質的な調査を並行し、市民意識調査として新たな試みをするのもよいと思う。  |
| F委員 | 回答方法は○をつけるだけか。   |
| 事務局 | 前回までは該当箇所に○をつける設問がほとんどで、今回も同様に考えている。記述部分はその他回答や、男女共同参画に関するご意見を書いていただく自由記載欄のみ。  |

### 3 閉会